



みどりの風

令和2年7月1日発行
校報 第576号
〔みどりの風 第119号〕
練馬区立関町北小学校

今こそ、出発点

—通常登校が始まって—

校長 大野 泰弘

今こそ出発点

人生とは毎日が訓練である

わたくし自身の訓練の場である

失敗もできる訓練の場である

生きていると喜ぶ訓練の場である

今この幸せを喜ぶこともなく

いつどこで幸せになれるか

この喜びをもとに全力で進めよう

わたくし自身の将来は

今この瞬間 ここにある

今ここで頑張らずに いつ頑張る

京都大徳寺大仙院 尾関宗園 閑栖

小学生のころ、京都市内の親戚の家に遊びに行ったとき、大徳寺が近くにあったので、見学に行ったことがあります。大徳寺は臨済宗大徳寺派の大本山で、創建は正中2年〔1325年〕で、創立者〔開基〕は大燈国師宗峰妙超禅師だそうです。現在、その境内には、別院が2寺、塔頭寺院〔たちゅうじいん〕が22寺ありますが、その塔頭寺院の中で別格扱いされているのが「大仙院」です。大仙院は、永正6年〔1509年〕、大徳寺76世ご住職の古岳宗亘（大聖国師）師によって創建されたそうです。その方丈庭園〔特別名勝・史跡〕は、わずか30坪ほどの広さですが、江戸時代初期を代表する枯山水の名園です。この大仙院には、このほかに唐門〔国宝〕や狩野探幽が描いた襖絵八十余面〔重要文化財〕をはじめ、貴重な文化財が残されています。

さて、その大仙院の閑栖を務めていらっしゃるのが、上記の言葉を残された尾関宗園閑栖です。尾関閑栖は昭和40年〔1965年〕からご住職を務められ、平成19年〔2007年〕からは閑栖として、多くの来訪者にお話をされているとのこと。私は、直接お目にかかったことはありませんが、そのお人柄については、「気さくな方で、元気で前向きにがんばろうという気概に溢れている方。その柔和な微笑みとともに、闊達な気力に触れると、元気をいただくことができる方」と伝えられています。

学校では、先月下旬より、通常の学校生活に戻るための試行錯誤の日々が続いています。新型コロナウイルスによる感染症予防だけでなく、熱中症、食中毒、アレルギー、校舎改築工事など、様々な課題に向き合いながら、この4月から全面実施となった学習指導要領に基づく授業を実践していかなければなりません。

尾関閑栖のお言葉をお借りすれば、「**学校の将来は 今この瞬間 ここにある 今ここで頑張らずに いつ頑張る**」となるのでしょうか。「明日、頑張ればいいや」ではなく、「あのとき、頑張ってたかった」と思えるように、「**今日という一日を全力で頑張る**」、その積み重ねが子どもたちを学校でお預かりする私たちに求められる基本的姿勢です。見えないウイルスとの戦いだけでなく、**弱い自分との戦いにも勝てるように、「今こそ出発点」の気概をもって日々研鑽に励んでまいりたいと思っています。**

例年とは違って、今月は月末まで授業がありますが、子どもたちの健康管理に気を付けながら、一人一人が元気に夏休みを迎えることができるようにサポートをしてまいります。